

おわりに



2017（平成 29）年度は、「神戸大学ビジョン」（通称：武田ビジョン）に則った大学機能強化が促進され、教員人事のポイント管理および学域制が本格化し、改善・変革の意識が構成員に染み渡ったと考えられる。このような環境の中で前年度末以降、自然科学系新学部構想に関する議論が繰り返され、2大学統合前の商船学部から統合後に海事科学部が引き継いだ登録船舶職員養成施設の機能を保持し、これまでの海技者教育をより高度に発展させつつ、「神戸大学ビジョン」の達成に向けた教育研究の強化と発展に向け、総合大学の強みを活かす教育研究体制のアイデア構築が進められている。100年の歴史と実績を尊重しながら、大胆なアイデアを取り入れることに躊躇すること無く、第二世紀を航進する堪航性を確実にすることを目指し、喧々譁々の議論が成されている。しかし、残念ながら、本報告書をまとめる時期においては、具体的内容に触れる（紹介する）段階には至っていない。

学内外を含む国内外の情勢、経済動向による国力の変化、文教政策、国立大学法人を取り巻く環境などの動きに対応しながら、神戸大学全体、部局（海事科学部・海事科学研究科）、講座・教育研究分野から教職員個人まで、いずれの階層においても好ましいリーダーシップとフォロワーシップに基づいたチームマネジメントおよびリソースマネジメントの実践により、組織力の向上を図り、毎年度および中期目標期間における目標達成を図らなければならない。

本報告書において、平成29年度に行った諸活動の自己点検及び自己評価を行い、データ蓄積と共に次期以降の活動計画の参考材料を提供する。

本報告書のあり方について、自己点検および自己評価の報告とデータ蓄積の機能を棲み分けることにより、点検・評価の機能を高めることが必要である。